

生涯学習 この人に聞く その(20)

援農ボランティアで 80 才を過ぎても元気に活躍中

「NPO 法人 府中かんきょう市民の会」竹田勇さん

ケヤキ並木の緑に魅せられて府中に移り住み 38 年、リタイア後、現役時代の知識と経験を生かして、第二のふるさと府中で、水と緑の街の“環境”と“援農”をテーマに活動を続けておられる竹田さんに、その思い、元気の秘訣を聞きました。



援農ボランティアを始めたきっかけは？

まず自己紹介をさせてください。今 84 才です。奈良・法隆寺近くの農家の次男に生まれ、大学では農芸化学を専攻。卒業後農薬会社に就職、会社では農薬の研究開発や環境安全の仕事をし、アフリカ・南米・東南アジアの発展途上国で農業支援にもたずさわりました。

71 才で仕事をやめたあと、「府中かんきょう塾」に 2 年間通い、府中の環境を学び、「府中かんきょう市民の会」、「かんきょう塾ネット」の会員となって、府中の環境にかかわる市民活動を始めました。

私はずっと“農”にかかわる学び・仕事をしてきましたから、“農”に関する課題にはいつも率先して取り組みました。「田んぼの学校」や「れんげまつり」、そして今私は「援農ボランティア」のリーダー役をしています。

どんな援農活動をされていますか？

府中市の「援農ボランティア制度」は、農作業の手助けを希望する農家に、ボランティアをあっせんするもの（平成 10 年より）ですが、「かんきょう市民の会」からも希望者がまとまって参加しています。現在、25 名（男女同じくらい）が 2 軒の農家さんのお手伝い。ハウス野菜栽培の市村農園（押立町）と小林農園（南町）。そして新しく始まるのが多摩川ネギ栽培の宮崎農園（南町）さんです。農園主さんと日時を調整して、草取り、手入れ、収穫、出荷、畑の片付けなど、人手のかかる単純作業・軽作業のお手伝い。月 2～3 回、1 日 2 時間くらいです。

援農作業で心がけておられることは？

ボランティアの平均年齢は 70 才くらいですから、作業は一人でしない、大勢でおしゃべりしながら作業する、無理をせず健康に気をつける、といったことで



でしょうか。私は、最近、しゃがむ作業など無理な姿勢はなるべく避け、立ってできる作業を心がけています。

援農の楽しみ、充実感は？

天気の良い日に畑で何も考えず無心に汗をかく爽快感でしょうか。また、休憩時に農園主や援農仲間とおしゃべりするのが楽しみです。そして、帰りには旬の野菜をお土産にいただくのも、ありがたいです。

秋には収穫祭のイベントを開催し、援農仲間と農家さんが一堂に会し収穫に感謝、バーベキューを楽しみ



ます。10 年も同じ農家さんとおしゃべりしていると、親戚同然のおつきあいとなっています。

元気・健康の秘訣は？

私は人一倍自分の身体を動かすのが好きです。ゴア元米副大統領の『不都合な真実』の映画を見て、マイカーも 10 年ほど前に手放しました。農園へは歩いて、または自転車通っています。さらに、ほぼ毎日、夕食前、スポーツクラブに通っています。目的はプール。水中歩行 300m、クロール 100m、ブレスト 100m が日課。多くの仲間と知り合い、お話しするのが楽しみで、かんきょう市民の会にも、援農にも誘ったりしています。

あとは何でも好き嫌いなく食べる。生まれ育った環境が戦前の小作農家だったものですから。それから今、麻雀教室で“脳トレ”にも力を入れています。女性も多く、たくさん刺激をもらっています。

最後に、援農ボランティアを始めたい方へメッセージを

まず、身体を動かすのが好きなことが必要でしょうね。今、府中では、さまざまな形の市民農園、シェア農園、野菜栽培体験農園などがあります。ぜひ都会の人、街中で土に触れてほしいと思います。

インタビューを終えて：

お話を聞くにつけ、竹田さんは“農”とともに生きてこられた、土の香りただよ、人間大好きの方とお見受けしました。いつまでもお元気で農園に。

（記：奥野英城 取材：奥野／西谷／山田／渡辺）

